

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）

— 県営畑地帯総合土地改良事業（表工区）

（宮田工区）に伴う埋蔵文化財確認調査事業報告書 —

<sup>ミズ</sup>水 ノ <sup>タニ</sup>谷 遺 跡  
<sup>ミヤ</sup>宮 <sup>タ</sup>田 遺 跡

1991年3月

鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

## 序 文

新橋工区、宮田工区の県営畑地帯総合土地改良事業を行うにあたり、この地域は文化財の包蔵地であるので、表工区水ノ谷遺跡を7月9日から7月20日まで、宮田工区宮田遺跡を7月23日から8月1日までの間発掘調査をしました。

両工区とも、ほとんどのところが、以前に削って平坦にされていたためか、水ノ谷遺跡の表土の中から、わずかに縄文時代晩期の土器が出土しただけでした。

工事をする側としては、何も出なくて計画どおりに施工できることは望ましいことで、今回はそのとおりになった次第です。

しかし発掘調査当事者としては、何が出てくるのかというなんとも言えない期待？を持って調査するのですから、ある面からいうと、がっかりということになるかも知れません。いつも思うことですが土地改良事業等の場合には、削るところには埋蔵してなくて、適当な厚さの盛り土をするところに貴重な遺構等が埋蔵してきてくれたらなあと考えたり、以前、民有地を調査してわかった「前谷遺跡」クラスの遺構、遺物が出土したら、土地を買い上げて、現状保存と復元等を図って、松山町にも遺跡公園をと勝手なことを考えています。

最後になりましたが、暑い中を積極的に発掘作業に徒事していただいた方々、また精力的にご指導いただいた県教育庁文化課の先生方に厚くお礼申し上げます。

平成3年3月

松山町教育委員会教育長 加世田 實

## 例 言

1. 本報告書は、平成2年度に実施した県営畑地帯総合土地改良事業曾於東部（表・宮田工区）に伴う埋蔵文化財発掘確認調査報告書である。
2. 発掘調査は国・県の国庫補助事業として、松山町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査の実施及び実測は、長野真一・上田義明がこれを行い、編集は上田義明が行った
4. 発掘調査の現場写真・遺物写真は上田義明が撮影した。
5. 本書に用いたレベル数値は、すべて海拔絶対高である。
6. 発掘調査後の整理作業は重富収蔵庫と松山町歴史民俗資料館で行った。

# 本文目次

## 序文

### 例言

#### 第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過 .....	1
第2節 調査の組織 .....	1
第3節 調査の経過 .....	2
第2章 遺跡の位置及び環境 .....	3
第3章 調査の概要	
第1節 調査の概要 .....	12
第2節 標準土層 .....	12
第4章 まとめ .....	13

## 挿図目次

第1図 水ノ谷遺跡・宮田遺跡位置図 .....	4
第2図 水ノ谷遺跡位置及び地形 .....	8
第3図 宮田遺跡位置及び地形 .....	9
第4図 水ノ谷遺跡トレンチ配置図 .....	10
第5図 宮田遺跡トレンチ配置図 .....	11
第6図 標準土層図 .....	12

## 図版目次

図版1 前谷遺跡発掘調査全景 .....	3
図版2 水ノ谷遺跡全景 .....	14
図版3 宮田遺跡全景 .....	14
図版4 標準土層 .....	15

## 表目次

第1表 遺跡地名表(1) .....	5
第2表 遺跡地名表(2) .....	6
第3表 遺跡地名表(3) .....	7

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県農政部（農地整備課・大隅耕地事務所）は、曾於郡松山町新橋表工区・宮田工区において畑地帯総合土地改良事業を計画し、実施計画地区内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化課に照会した。

これをうけて平成元年5月、文化課と町教育委員会で当該地区の分布調査を実施したところ、工事実施予定区域内に2ヶ所の遺跡（水ノ谷遺跡・宮田遺跡）の存在していることが確認された。

この結果に基づき、県農政部農地整備課（大隅耕地事務所）、文化課、町教育委員会の間で事業の推進と埋蔵文化財の保護にかかわる協議が行われ、町教育委員会が調査主体となって県文化課の指導、協力を受けながら、遺跡の範囲・性格等を把握するための発掘調査を実施することとなった。

発掘調査は、国・県の補助を得て実施した。費用は総事業費2,500千円で、うち国庫補助1,250千円、県費補助625千円、町費負担625千円である。確認調査は平成2年7月9日から平成2年8月1日まで実施した。

## 第2節 調査の組織

調査主体者	松山町教育委員会		
調査責任者	松山町教育委員会	教 育 長	加世田 實
調査事務担当者	〃	管 理 課 長	佐々木 則安
	〃	主 査	佐野 スミ
	〃	社会教育課長	牧 悦朗
	〃	主 事	津 曲 兼隆
	〃	主 事	上 原 登
	〃	主 事 補	上 田 義明
	〃	主 事 補	大 迫 秀治
	〃		山 口 直人
	〃	社会教育指導員	立 山 春雄
	〃	庶 務 係	中 西 みよ子
調査担当者	松山町教育委員会	主 事 補	上 田 義明
	鹿児島県教育委員会	主 査 長	野 真一

なお、調査の企画等において、県教育長文化課長吉井浩一、同課長補佐濱松巖、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸、同企画助成係長濱崎琢也の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

### 第3節 調査の経過

- 7月9日 (月) 水ノ谷遺跡調査開始。調査機材の搬入。発掘調査についての説明。第1・第2トレンチ設定。
- 7月10日 (火) 第1・2トレンチ第2・3層検出。出土遺物なし。
- 7月11日 (水) 第1・2トレンチ第4層検出。出土遺物なし。
- 7月12日 (木) 第1・2トレンチ第5層検出。出土遺物なし。第3・4トレンチ設定。
- 7月13日 (金) 第1・2トレンチ第6・7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第3・4トレンチ第4・5層検出。出土遺物なし。第5・6・7トレンチ設定。
- 7月16日 (月) 第3・4トレンチ調査面積を半分縮小、第6・7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第5・6・7トレンチ第4・5層検出。第8・9・10・11トレンチ設定。第8・9トレンチ第4層検出。出土遺物なし。
- 7月17日 (火) 第5・6・7トレンチ第6・7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第8・9トレンチ第5・6層検出。第10トレンチ第3・4層検出。第11トレンチ5層検出。出土遺物なし。
- 7月18日 (水) 第8・9トレンチ第7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第10トレンチ5層検出。第11トレンチ6層検出。出土遺物なし。
- 7月20日 (金) 第10トレンチ6・7層検出。第11トレンチ7層検出。写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。出土遺物なし。各トレンチ位置図実測。全作業終了。調査機材の搬出。宮田遺跡に移動。
- 7月23日 (月) 宮田遺跡調査開始。調査器具の搬入。発掘調査についての説明。第1・2トレンチ設定。第1トレンチ第3層検出。2トレンチ第4層検出。出土遺物なし。
- 7月24日 (火) 第1トレンチ第4・5層検出。2トレンチ第5・6層検出。第3・4・5トレンチ設定。第3・4トレンチ4層検出。出土遺物なし。
- 7月25日 (水) 第1トレンチ第6・7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第3・4トレンチ5・6層検出。第5トレンチ4層検出。出土遺物なし。
- 7月26日 (木) 第3・4トレンチ7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第5トレンチ5層検出。出土遺物なし。第6・7トレンチ設定。
- 7月27日 (金) 第5トレンチ6・7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。第6・7トレンチ4層検出。出土遺物なし。
- 7月30日 (月) 第6・7トレンチ5・6層検出。出土遺物なし。
- 7月31日 (火) 第6・7トレンチ7層検出、写真撮影、層位断面図実測、埋め戻し終了。各トレンチ位置図実測。出土遺物なし。全作業終了。調査機材の搬出。県教育委員会文化課企画助成係平山彰氏現地視察。
- 8月1日 (水) 文化課主査長野氏、企画助成係平山彰氏と教育委員会の発掘後の協議。

## 第2章 遺跡の位置及び環境

### 第1節 遺跡の位置及び環境

水ノ谷遺跡・宮田遺跡は鹿児島県曾於郡松山町新橋に所在する。水ノ谷遺跡は町役場から東に約2,5kmの標高約182m位置し、町道中山豊留線を境にして西に香之田遺跡、東に水ノ谷遺跡がある。両遺跡はもともとは同一の台地に立地していたと思われる。宮田遺跡は町役場から北東約4km広域農道の東側に位置し、標高は約183mである。

松山町は、大隅半島・曾於郡のほぼ中央で、経緯度13度から13度7分、北緯31度37分に位置し、東西12km、南北4kmの広さで、町の総面積は49,69km<sup>2</sup>である。また、東に志布志、西に末吉・大隅、南に有明・志布志、北が末吉と4町に囲まれている。

山岳は末吉町に境する宮田山(520m)、有明町に境する霧岳(408m)が主な丘陵で、河川は大隅町岩川から新橋河床を経て、町の西端を流れる菱田川上流と尾野見桃木東端と大統東端を流れる安楽川支流が主な河川である。

西部や南東部はおおむね火山灰台地である。特に、西部一帯は火山灰台地が広範囲に広がっている。またこれらの火山灰台地では侵食による開析が進み、大小の谷が発達し、各台地は独立した丘陵状をなしている。

松山町で現在確認されている遺跡は95ヶ所であるが、尾野見地区は12ヶ所だけで、そのほとんどが新橋地区に所在する。そのなかで、発掘調査が行われた遺跡は7ヶ所である。なかでも、昭和60年度に発掘調査が行われた前谷遺跡、昭和63年度に行われた前谷B遺跡、井手間・山ノ田遺跡では住居跡などが確認されている。また、昭和63年度に行われた稗ヶ迫B遺跡では旧石器時代の遺物が表面採集されており、まだ松山町で発見されていない旧石器の遺跡である可能性があったが、確認調査の結果、遺物包含層は確認されなかった。



図版1 前谷遺跡発掘調査全景



第1図 水ノ谷遺跡・宮田遺跡位置図



表1 遺跡地名表(1)

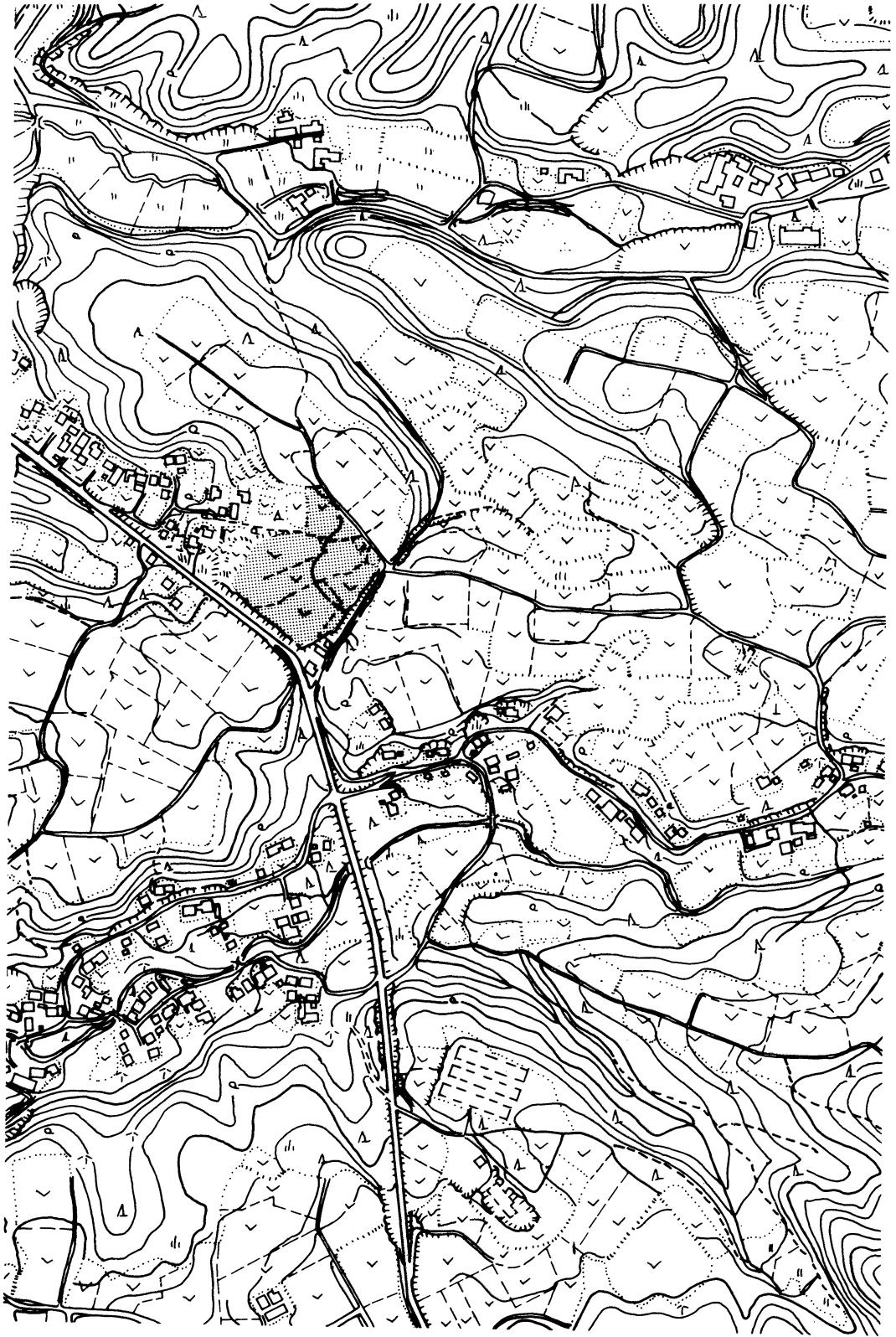
番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献	
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世			
67-1	宇都谷	新橋字宇都谷		○							前平式	
67-2	宇都D	新橋字宇都		○				○			吉田式・土師器 須恵器・黒曜石石鏃	
67-3	砂田A	新橋字砂田		○							石坂式・押型文・石鏃	
67-4	中村	尾野見字中村		○							前平式	
67-5	下迫C	新橋字下迫		○							塞ノ神式 姫島産黒曜石	
67-6	榎之俣	新橋字榎之俣		○							塞ノ神式	
67-7	砂田D	新橋字砂田		○	○			○			竊式	
67-8	稗ヶ迫C	新橋字稗ヶ迫		○	○						竊式・岩崎式・土師器	
67-9	内ノ野C	泰野字内ノ野		○							塞ノ神式・打製石斧	
67-10	前ノ谷	泰野字堀ノ内		○								
67-11	公会堂上	新橋字公会堂上		○							塞ノ神式	
67-12	狩川B	新橋字狩川		○							阿高式・敲石	
67-13	松山	新橋字松山		○							阿高式・御領式 磨製石斧・敲石	
67-14	入道久保A	新橋字入道久保		○							阿高式・石斧	
67-15	内ノ野B	泰野字内ノ野		○							阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67-16	郷田	泰野字郷田		○							阿高式・磨製石斧 凹石・石皿	
67-17	蛇山ノ谷	尾野見字蛇山ノ谷		○	○						石匙・打製石斧	
67-18	垂門A	新橋字垂門		○							市来式	
67-19	下迫A	新橋字下迫		○	○			○			御領式・土師器	
67-20	堀口	新橋字堀										
67-21	河床											
67-22	宇都A											
67-23	宇都B											
67-24	宇都C										岩崎上層式	
67-25	中村迫	新橋字中村迫		○				○			石皿・打製石斧 土師器・須恵器	
67-26	山ノ田	新橋字山ノ田		○				○			早期・松山式・土師器	
67-27	後谷A	新橋字後谷		○							指宿式	
67-28	上ノ原	新橋字上ノ原		○							綾式・岩崎上層式	
67-29	入道久保B	新橋字入道久保		○	○						打製石斧	
67-30	仮屋	新橋字仮屋		○				○			土師器	
67-31	稗ヶ迫A	新橋字稗ヶ迫		○				○			御領式・土師器	

表2 遺跡地名表(2)

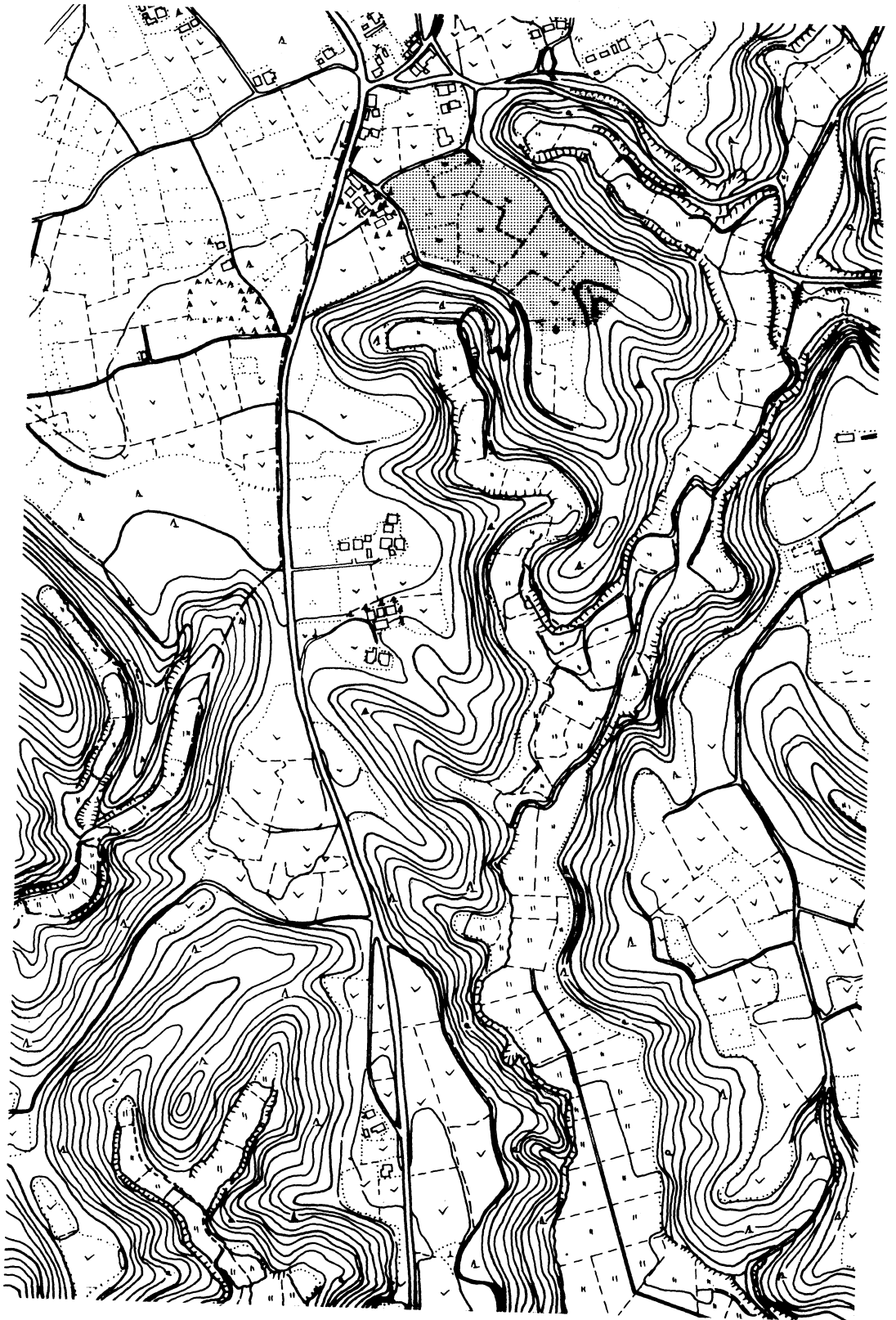
番 号	遺 跡 名	所 在 地	時 代							遺 構 ・ 遺 物	文 献	
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世			
67-32	中 山 A	新橋字中山		○							黒曜石	
67-33	堀 之 内	泰野字堀之内		○				○			市来式・黒曜石 土師器	
67-34	黒 石 崎	尾野見字黒石崎		○							出水式・敲石・石剣	
67-35	井 手 段 III	尾野見字中村井手段		○							岩崎上層式	
67-36	百 田	新橋字百田		○							上加世田式・打製石斧	
67-37	横 溝	新橋字横溝		○				○			磨製石斧・土師器	
67-38	牧 ノ 原 B	新橋字牧ノ原		○				○				
67-39	大 原	新橋字大原		○	○			○			入来式・土師器	
67-40	後 ノ 谷	新橋字後谷		○				○			土師器	
67-41	水 流 知	新橋字水流知		○				○			土師器	
67-42	蕨 野	新橋字蕨野		○				○			土師器・打製石斧	
67-43	入 道 久 保 C	新橋字入道久保		○				○			土師器・須恵器	
67-44	稗 ヶ 迫 B	新橋字稗ヶ迫		○	○						石斧・岩崎式・弥生壺	
67-45	中 山 B	新橋字中山		○	○						入来式	
67-46	黒 石 II	尾野見字黒石		○								
67-47	牧 ノ 段	新橋字牧ノ段		○								
67-48	井 手 間	新橋字井手間		○	○			○			押型文・弥生住居	
67-49	梨 木	新橋字梨木		○				○			土師器・青磁・鉄滓	
67-50	大 窪 B	新橋字大窪垂門		○				○			土師器	
67-51	後 谷 B	新橋字後谷		○								
67-52	後 ノ 谷	新橋字後谷		○								
67-53	前 谷	泰野字前谷		○	○			○			春日式・住居跡・掘立	
67-54	砂 田 C	新橋字砂田		○				○			土師器	
67-55	黒 石 I	尾野見字黒石		○								
67-56	豊 留	新橋字豊留				○					打製石斧	
67-57	大 窪 A	新橋字大窪				○						
67-58	狩 川 A	新橋字狩川				○					打製石斧・磨製石斧・ 敲石	
67-59	内 ノ 野 A	泰野字内ノ野				○					石斧・石鏃	
67-60	柿 木 瀬 戸	泰野字柿木瀬戸				○					打製石斧	
67-61	六 日 畑	泰野字六日畑			○	○					山ノ口式・打製石斧	
67-62	中 村 手 岡	尾野見字中村手岡				○					打製石斧	
67-63	鳩 窪	尾野見字鳩窪				○					山ノ口式	
67-64	井 手 段 I	尾野見字中村井手段				○						
67-65	砂 田 B	新橋字砂田				○						
67-66	川 路	新橋字川路				○					打製石斧	

表3 遺跡地名表(3)

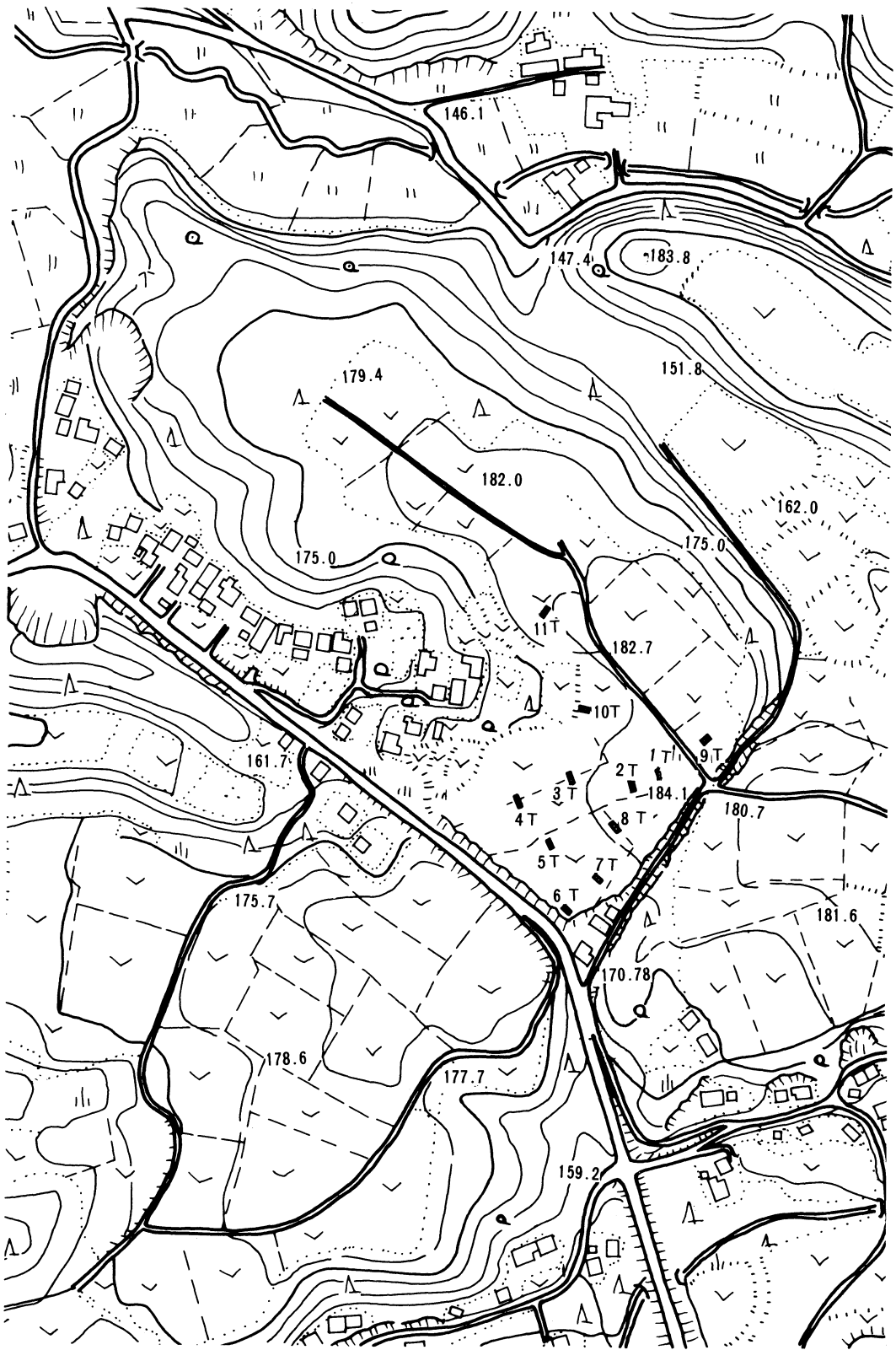
番号	遺跡名	所在地	時代							遺構・遺物	文献
			旧石	縄文	弥生	古墳	古代	中世	近世		
67-67	栗須田	新橋字栗須田				○					
67-68	尾野見	尾野見				○					
67-69	桐ノ木	尾野見字桐ノ木				○					
67-70	瀬戸地下式 横穴	泰野字柿木瀬戸					○			地下式横穴	
67-71	竹下	新橋字竹下						○		土師器・須恵器・青磁	
67-72	四ツ枝	新橋字四ツ枝						○		土師器・須恵器・青磁	
67-73	垂門C	新橋字垂門						○		土師器	
67-74	下迫B	新橋字下迫						○		土師器	
67-75	牧ノ原A	新橋字牧ノ原						○		土師器	
67-77	後谷C	新橋字後谷									
67-78	狩川C	新橋字狩川						○		須恵器	
67-79	清水迫	新橋字清水迫						○		土師器	
67-80	川東	泰野字川東						○		土師器・須恵器	
67-82	垂門B	新橋字垂門			○			○		土師器	
67-83	前之窪	新橋字前之窪			○			○		土師器	
67-84	泰野城跡	泰野字京ノ峯									
67-85	松山城跡	新橋字松尾								文治4年(1188年) 隠岐守重頼築城	
67-86	銭ヶ迫一里塚	尾野見字桃木銭ヶ迫									
67-87	柏木門四郎 の墓	尾野見字柏木									
67-88	中原一里塚	尾野見字中原									
67-89	泰野の石敢当	泰野									
67-90	馬場の庚申塔	新橋字馬場									
67-91	豊留の 田之神像	新橋字豊留									
67-92	豊留の板碑	新橋字豊留									
67-93	前谷B	泰野字前谷			○	○	○			縄文晩土壙・弥生住居	
67-94	香之田	新橋字狩川			○					塞ノ神式	
67-95	宮田	新橋字宮田上									
67-96	水ノ谷	新橋字水ノ谷								新橋字水ノ谷	
67-97	境段	新橋字境段								新橋字境段	
67-98	大丸	新橋字大丸									



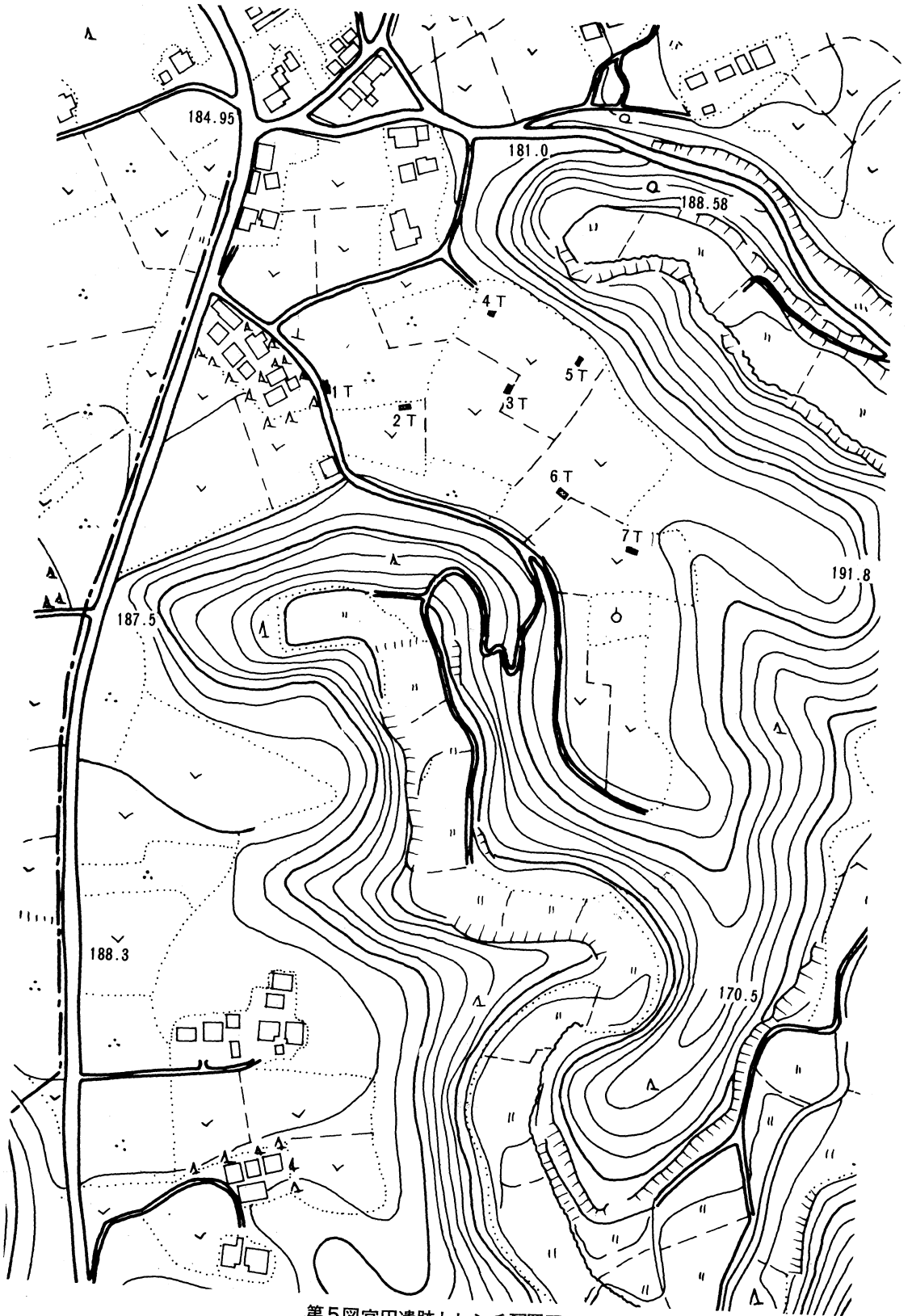
第2図水ノ谷遺跡位置及び地形



第3図 宮田遺跡位置及び地形



第4図水ノ谷遺跡トレンチ配置図



第5図宮田遺跡トレンチ配置図

## 第3章 調査の概要

### 第1節 調査の概要

水ノ谷遺跡の調査区域は、菱田川の支流松尾川に余って開析された標高約180mのシラス台地上に位置している。平成元年に発掘調査が行われた香之田遺跡は道路をへだてて遺跡の西側にあり、両遺跡とも平成元年5月に分布調査が行われ、遺跡の存在が確認された。

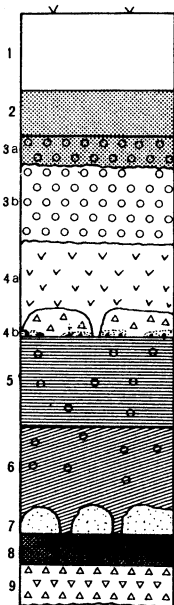
発掘調査は、分布調査で確認された部分、立地条件等から遺跡の可能性の高い部分を中心に2m×3mのトレンチを基本として11ヶ所設定して行った。全体的に4層から上が削平されていたため地表面に遺物は認められたが、遺物包含層は確認できなかった。

宮田遺跡の調査区域は、松山町の北西端、平成元年度に発掘調査を実施した牧ノ段遺跡が所在する台地の約1km北東側に位置する。平成元年度に分布調査を行い、遺跡の存在する可能性の高いことが確認された。

発掘調査は、水ノ谷遺跡同様に分布調査で確認された部分、立地条件等から遺跡の可能性の高い部分を中心に2m×3mのトレンチを基本として7ヶ所設定して行った。この遺跡もほとんどが既に削平を受けており、遺物、遺構等は確認されなかった。

### 第2節 標準土層

- 1層 暗褐色耕作土。
- 2層 黒色土層。黒色微粒の植壤土で、やや粘質を帯びる。
- 3層 明黄褐色軽石質火山灰土層。
- 4 a層 褐色腐食火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石を多く含む。4 b（アカホヤ）層の二次堆積層と思われる。



第6図標準土層図

- 4 b層 明褐色火山灰土層。上位のフカフカした新鮮な火山灰と下位の砂粒、火山豆石を含む薄層理層とに区分できる。安定した層をなさず5層下部にブロック状に点在している場所も見られる。鬼界カルデラ起源のアカホヤの層に対比できる。
- 5層 灰褐色火山灰土層。直径1cm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含む。
- 6層 黒褐色腐食土層。直径の5mm前後の黄橙色軽石および直径5mm前後の青灰色安山岩小礫を多く含み、割合に硬くしまっている。5層との境は不明瞭で漸移している。
- 7層 黄橙色火山灰土層。割合に硬くしまった粘土化した火山灰土で、6層下部にブロック状にはいる。桜島起源の「薩摩層」に対比できる。
- 8層 明褐色粘質土層。きわめて細粒の粘質を帯びたソフトローム層である。



## 第4章 ま と め

今回は水ノ谷遺跡11ヶ所、宮田遺跡7ヶ所のトレンチを設定して調査したが、水ノ谷遺跡・宮田遺跡とも包含層は確認できなかった。しかし、水ノ谷遺跡では4・5・6トレンチの表土から土器が数点出土した。いずれも時期を確認できるものはなかったが、この遺跡が既に削平をうけていることを示すものと思われる。宮田遺跡でも表土上にかなり磨滅した土器が表採されるとともに、表土直下が4層であるため、水ノ谷遺跡と同じ状況であると思われる。



図2 版水ノ谷遺跡全景



図版3 宮田遺跡全景



図版4 標準土層

#### 発掘作業員

- ・末永 ツギ・加世田 シズ子・大原信子・日高 ウル子・安楽 ナミ・川辺 ハツエ
- ・谷口 スミエ・紙屋 きみこ・狩川 アツ子・加世田 悦子・大原 智恵子・山口 キミエ
- ・永山 美子・坂元 優子・脇田 真砂代・阿多 久子・上ノ園 よし子・加世田 エイ子
- ・富吉 かおる・徳増 スミノ・児玉 あや子

#### 整理作業員

- ・東 イサ・坂元 優子・白坂 美枝子・隈元 久美子・白坂トキ子

松山町埋蔵文化財発掘調査報告書(6)

水ノ谷遺跡

宮田遺跡

発行日 1991年3月

発行者 鹿児島県曾於郡松山町教育委員会

〒899-76鹿児島県曾於郡松山町新橋268

印刷 (有志布志新生社印刷)

